【古墳時代】

今回の調査では、古墳の周溝を確認しました。周溝は、調査区の北西側と南西側で幅約２m前後、深さ30㎝です。円墳とすると直径14mです。古墳の墳丘自体は削平されていて、埋葬施設は確認できませんでした。遺物は、北西側の周溝で須恵器や土師器が出土しています。古墳の時期は、６世紀中葉と考えられます。

周溝からみつかった遺物（東から）

【奈良時代】

調査区の中央部北側で掘立柱建物を１棟確認しました。掘立柱建物１は東西５間（9.2m）、南北２間（4.7m）の建物です。

掘立柱建物（東から）

火葬墓（南から）

人骨・炭化物が出土（南から）

【鎌倉時代から室町時代】

調査区内において、約40基の火葬墓を確認しました。火葬墓は、長方形の穴を掘って、その中で死体を火葬したもので、規模は長辺50～70㎝前後、短辺30～50㎝前後、深さ３～30㎝です。深さが浅いものは、後世に地形が変えられたと考えられます。

今回、確認された火葬墓内には、人骨や炭化物を多く含むものから、ほとんど含まないものまで色々なケースがありました。火葬墓内に副葬品は、ほとんどありませんでした。

出土した銭貨（南から）

調査区全景（東から）

【まとめ】

今回の調査では、古墳時代の古墳１基、奈良時代の掘立柱建物１棟、鎌倉時代から室町時代の火葬墓約 40 基を確認しました。

古墳は、中ノ川左岸下流域の丘陵地で確認したことが非常に重要です。また、周辺の稲生遺跡や稲生山古窯跡群との関係性が考えられ、地域の開発が進んでいたことを示しています。

奈良時代の掘立柱建物は、大型の建物であるため、この地域の有力者が関わった公的な施設の可能性が考えられます。そして、高井Ａ・Ｂ遺跡と同様の一連の遺跡と考えられます。

火葬墓は、いくつかのまとまりがあり、家族や親族ごとで墓域が分かれていた可能性が考えられます。

それぞれの各時代の遺構を確認できたことは、非常に大きな成果であるだけでなく、広く中ノ川左岸の丘陵地や平野部の遺跡を考えるうえで、重要な調査となりました。

調査遺跡名	水深遺跡
所　在　地	三重県鈴鹿市徳田町
調査面積	1,144 ㎡
調査期間	令和４年８月 18 日～令和５年１月 31 日（予定）
原因事業名	高度水利機能確保基盤整備事業（徳田地区）
調査実施機関	三重県埋蔵文化財センター

水深遺跡（みずぶかいせき）現地説明会資料

～鈴鹿市徳田町～

2022 年（令和４年）11 月６日
三重県埋蔵文化財センター

この地図は国土地理院電子地形図を加工・編集したものである

【はじめに】

水深遺跡は、鈴鹿市徳田町に所在し、中ノ川（なかのがわ）左岸の稲生山（いのうやま）丘陵の端に位置しています。周辺部の地域には、遺跡が多く所在し、磯山バイパスや国道 23 号中勢バイパス建設工事に伴って発掘調査が行われています。

過去に調査が行われた森ヶ坪遺跡では、弥生時代の溝・井堰（いぜき）・井泉（せいせん）遺構が確認されています。戸関遺跡では、掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）が確認され、弥生時代から古墳時代の土器や平安時代の灰釉陶器（かいゆうとうき）が出土しています。高井Ａ・Ｂ遺跡では、奈良時代から鎌倉時代にかけての掘立柱建物が確認され、出土遺物に須恵器（すえき）、灰釉陶器や緑釉陶器（りょくゆうとうき）があり、地域の有力者層の存在が考えられます。南谷遺跡では、弥生時代後期の竪穴建物（たてあなたてもの）が確認されています。稲生遺跡では、稲生山古窯跡群と関係があるとみられ、古墳時代の須恵器などが出土しています。

それでは、今回の発掘調査で分かったことについて見ていきます。